

下松市におけるホストタウン事業活性化に対するPBIの寄与 —産学官連携による「おもてなしプラン」づくり—

The Issue of "KUDAMATSU City Host Town Project"

中嶋 克成 (徳山大学) 北島 信哉 (共栄大学) 寺田 篤史 (徳山大学) 原 幸彦 (株式会社ミズノ) 栗林 栄作 (西京銀行)

キーワード：PBI 産学官連携 ホストタウン事業
AL

1. はじめに

徳山大学は2018年3月に「下松市及び徳山大学の連携協力に関する協定」（以下、包括連携協定）を下松市と締結し、中山間地域活性化や国際交流等の活動を行ってきた。下松市は2018年12月28日にベトナム女子バドミントンチームの受入れ地としてホストタウンとなっており、筆者らは2019年よりこの下松市ホストタウン事業活性化に向けた取組みに関わることになった。また、西京銀行が擁する「ACT SAIKYO」がこのベトナム女子バドミントンチームの練習場所提供をしており、このホストタウン事業における「おもてなし」のプランを考える「西京銀行課題解決型インターンシップ（PBI）」が2019年度に徳山大学との連携のもと実施された。

本稿は、この西京銀行PBIを中心に下松市ホストタウン事業活性化に向けた筆者らの取組みを報告する。また、この取組を実施した企業からみてどのような意義があったかについて若干の考察を行う。

1.1 地域ゼミ

下松市ベトナム女子バドミントンチームホストタウン事業に対して徳山大学では学生が

授業を通じて協力した。その中心となったのが「地域ゼミ」である。徳山大学が2年次の必修科目として開講している「地域ゼミ」は、地域課題の発見・解決に取組む課題解決型学習（Project Based Learning; PBL）科目である。徳山大学はアクティブ・ラーニング（AL）の全学的推進を掲げて教育改革に取組み、2014年度より文部科学省大学教育再生過疎億プログラム（AP）テーマI「アクティブ・ラーニング」の選定を受けており、その取組みの柱の一つとして4年間を通じたPBL学修体系を構築してきた。

PBL体系とは以下のような学習体制である。初年次「教養ゼミ」において学生は大学におけるラーニングスキルをPBLのための「PBLリテラシー」として学ぶ。2年次に「地域ゼミ」はPBL入門科目であり、そこで学生は初年次に学修した「PBLリテラシー」を活かして地域課題に取組み、同時に3・4年次に必要となる知識・技能を自覚する。3・4年次開講の「専門ゼミⅠ・Ⅱ」ではこれまでの学習の総仕上げとして卒業論文作成に向けて本格的

表1. 4年間の継続するPBL教育体系のイメージ

教養ゼミⅠ	地域ゼミ	専門ゼミⅠ・Ⅱ
PBLリテラシー 1年次必修	PBL入門 2年次必修	本格的PBL 3・4年次 経済学部 選択必修 福祉情報学部 必修
EQ関連科目 協働学習のためのEQ力育成		

PBLに取り組む^[注1]。これらの学習を通じて学生が課題発見・解決の方法論として「課題対応能力」を伸ばしていくことが期待されている。また、PBLではチームでの協働が不可欠であり、そのペースとなる人間力・EQ (Emotional Intelligence Quotient; 心の知能指数) を養成する「EQトレーニング」ほかEQ教育関連科目をほぼすべての学生が受講するという体制となっている。

「地域ゼミ」はこの体系の中核であり2年次の必修科目として開講されている。ゼミは例年20数講座が用意され、教員の専門や学外の連携相手に応じて、地域貢献活動、ボランティア、商品開発、映像コンテンツ制作、イベント実施など多様な内容がそろえられている^[注2]。学生には1年次「教養ゼミⅠ」内で告知され、希望を取って配属される(応募者多数の場合は抽選)。2019年度開講ゼミのうち、前期に開講された「西京銀行インターンシップ/小成川地区災害ボランティア」(中嶋担当)、「東京五輪・パラリンピックに向けた防府市ホストタウン事業活性化」(北島担当)、後期に開講された「社会貢献について考える」(中嶋担当)が本研究に中心のかかわった「地域ゼミ」である。

前期「西京銀行インターンシップ/小成川地区災害ボランティア」(中嶋担当)は、後述の西京銀行課題解決型インターンシップ(PBI)に参加し下松市ホストタウン事業での「おもてなしプラン」を作成、それだけでなく下松市と連携しホストタウン事業を市民に広める

ための広報活動を行った(その他、豪雨災害被災地でのボランティアにも取り組んだ)。「東京五輪・パラリンピックに向けた防府市ホストタウン事業活性化」(北島担当)は、セルビア女子バレーボールチームを受け入れる防府市のホストタウン事業における課題解決を「防府市セルビアホストタウン推進室」と連携して行い、学生がホストタウン事業そのものへの理解を深める過程で西京銀行PBIに参加する形がかかわった。後期の「社会貢献について考える」(中嶋担当)では、前期に実施されたPBIで出された「おもてなしプラン」を実現する活動を行なった(その他、リレー・フォー・ライフ・ジャパンやまぐち実行委員会事務局主催の「がん患者支援チャリティ活動」に運営に参加するなどした)。

課題解決型インターンシップ(PBI; Project Based Internship)とは、就業体験を目的とした通常のインターンシップとは異なり、企業の課題解決に向けて学生が主体的にかかわっていくタイプのインターンシップである。前述のAP事業において徳山大学では「課題対応能力」の伸ばしにも寄与するインターンシッププログラムの開発・実施を行ってきた。2019年度の西京銀行PBIは「ホストタウン事業活性化」という課題に対して学生が「おもてなしプラン」を提案するという内容であり、PBIと同じく「課題対応能力」伸ばしを目的とする「地域ゼミ」の活動の一部として中嶋・北島が参加した。

[注1] 徳山大学では、学生が自身の関心に従って課題を発見し解決していく営みとして卒業論文執筆・卒業作品制作もPBLとみなしている。そのほか、2019年度より地域企業から活動テーマと資金の提供を受けて実施される「山口型PBL」での専門ゼミも一部講座で開講されている。「山口型PBL専門ゼミ」については、次のサイトを参照。「山口型PBL専門ゼミ」『徳山大学』 https://www.tokuyama-u.ac.jp/faculty/active-learning/tual_pbl.html 閲覧日2020年11月17日

[注2] これまでの開講ゼミの概要については次のサイトを参照「地域ゼミPROJECT」『徳山大学』 <https://www.tokuyama-u.ac.jp/faculty/community/> 閲覧日2020年11月17日

地域ゼミではこのような仕方、学生の課題対応能力伸長を目的としつつ、下松市ホストタウン事業活性化への取組みを行った。

1.2 その他の授業

また、西京銀行PBIには「地域ゼミ」以外の授業でも学生が関わっている。

まず、初年次の「教養ゼミⅠ」のうち中嶋・寺田担当授業の学生が本PBIに参加した。「教養ゼミⅠ」は「PBLリテラシー獲得」「キャリア意識形成」「地域意識の寛容」を共通の目的として10数ゼミ共通シラバスで実施されているが、一部担当教員に任されているところがある。この2講座は自由裁量に任されている数回を西京銀行PBI参加にあてることにより、これら共通目的に資することを期した。

また、北島担当の「専門ゼミⅠ」（3年次）の学生も本PBIに参加した。専門ゼミは最終的な卒業論文作成に向けての学習を行う授業であるが、PBIにおける情報の収集やそれをまとめる作業がこうした学習に資することを期待された。また、PBI参加学生の中では上級学年であり、グループワークにおけるチューター・ファシリテータとして下級生の学習を統括・サポートする役目を担った。一部「教える側」に回ることで、情報収集や取りまとめについての学びが一層深まることが期待された。

こうした「地域ゼミ」やその他の授業における西京銀行PBIを通じた学生の学びについての成果はすでに報告した^[注3]。学生側にとってのかような意義に対して、企業側にとって本PBIがどのような意義があったのだろうか。

2. ホストタウン事業とは

本論に入る前に、本PBIのテーマとなった「ホストタウン事業」について整理しておきたい。

2.1 山口県内のホストタウン

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「2020年大会」という。）は、新型コロナウイルスの影響により、1年延期が決定している。2020年大会に向け、全国の自治体が世界中の国々と交流するのがホストタウンである。この取組は、自治体が大会を契機に参加国や地域と、スポーツ・文化などの相互交流を通じて、スポーツ立国、グローバル化の推進、観光振興、地域活性化等を推進する取組である。¹⁾ このホストタウンには、全国で405件（2020年10月30日現在）の登録があり、山口県内でも、8市がこのホストタウンに登録を行い、表2の通り対象国との多様な交流が行われている。²⁾

県内登録自治体の山口市では、スペイン水泳チームとの市民交流、小学生へスペイン文化を身近に感じてもらう取組、高校生との日本文化の交流を実施している。また、ホストタウンのPR活動を行う団体に山口市ホストタウン普及活動支援補助金を設立し、補助している。³⁾ また本研究の対象である下松市は、ベトナムのホストタウンとして、ACT SAIKYO（バドミントンS/Jリーグ所属）との協働によるキャンプ誘致に取り組んでいる。地域住民やベトナム人留学生等との連携により、交流事業等を企画、運営している。⁴⁾

[注3]中嶋克成・北島信哉・寺田篤史（2020）『西京銀行課題解決型インターンシップ2019年度報告：下松市ホストタウン事業おもてなしプランづくり』（デザインエッグ社）

表2. 山口県内ホストタウン自治体

自治体	交流相手国	受入団体競技
山口県・山口市・宇部市	スペイン	競泳、アーティスティックスイミング、水球
宇部市	マダガスカル	パラスポーツ
下松市	ベトナム	バトミントン
萩市	英国	カヌー
防府市	セルビア	バレーボール
岩国市	米国	フェンシング、ソフトボール
長門市	トンガ、ブラジル	ラグビー
下関市	トルコ	柔道

出所) 首相官邸「ホストタウン一覧」webサイトより作成

2.2 共生社会ホストタウン、復興ありがとうホストタウン

ホストタウンには、共生社会ホストタウン、復興ありがとうホストタウンがある。共生社会ホストタウンは、パラリンピアンを受入れを契機に、特色のある総合的なユニバーサルデザインの街づくり及び心のバリアフリーの取組を実施し、大会以降も共生社会の実現を目指す自治体である。⁵⁾ これまでの交流事業は、オリンピックとの交流事業、ユニバーサルの街づくり、心のバリアフリーという区分に応じ各自治体の取り組みが行われてきた。コロナ禍の現在において、栃木県那須塩原市は、オーストリアのパラ水泳、自転車選手と市内小中学校がオンライン交流している。また東京都三鷹市は、チリとの交流において応援メッセージの動画作成等を予定し、インターネットによる交流促進を図っている。⁶⁾

復興ありがとうホストタウンは、東日本大震災から復興した姿を見せつつ、これまでの支援への感謝を伝えるために、支援をしてくださった相手国・地域の方々や大会関係者との交流を行う自治体である。⁷⁾ 事業について、大会前は復興状況の発信や交流会の実施を行い、大会中は、交流国の選手の応援、大会後

も相互交流会等を予定している。⁸⁾

2.3 大学とホストタウン

2020東京大会に向け、大学がホストタウンに取り組んでいる例もある。ホストタウンにおける大学との連携は、仙台大学が宮城県の白石市と柴田町とベラルーシの新体操チームの受入を行っている。⁹⁾ この取組は、仙台大学の運動栄養学科の学生が東北のご当地メニューを基に東北6県弁当の開発・提供が実施された。山口市では、山口県立大学の栄養学科の学生が、アーティスティックスイミングのスペイン代表チームにアスリート向け献立の食事を提供し、選手たちのもてなしが行われた。¹⁰⁾ 所沢市と早稲田大学は、イタリアオリンピック委員会と事前トレーニングキャンプの正式契約を締結している。¹¹⁾ 東松山市、大東文化大学、キューバ共和国の3者は、事前合宿の実施に向けた基本合意書を2019年8月に締結している。市内の住民、子どもたちや学生とオリンピック選手・関係者等との交流を通じ、外国文化の学習やスポーツ振興を図り、東京大会のレガシーを創出するとしている。¹¹⁾ 筑波大学は、2018年4月、スイスオリンピック協会・茨城県・つくば市の4者により、事前キャンプの実施についての基本合意書を締結し、スポー

ツだけでなく、教育や音楽、食など文化面でも、幅広く交流を行うとしている。¹²⁾

2.4 ホストタウンの今後に向けて

このように、現在まで全国の自治体を中心に交流国と多様な事業が展開されている。そして、ホストタウン事業を推進する上で、優れたホストタウンの取組やそのノウハウ、取組を進めていく上での課題に係る調査が行われた。この調査は、これまでの成果や検証結果を横展開することにより、全国のホストタウンの推進を図ることを目的に実施されている。¹³⁾

これまで取り組んできたホストタウン事業の成果は、事業を通じて同年代の生徒と交流する場の創出によるモチベーションの向上、¹⁴⁾ 東京大会に向けた機運醸成¹⁵⁾、国際社会への理解や関心につながる貴重な機会¹⁶⁾、ホストタウンの取組の認知度が向上¹⁷⁾ があげられていた。また交流相手国への訪問を通じ、交流事業の可能性と今後の展開について調査を実施¹⁸⁾、関係者との関係を構築¹⁹⁾ ということがあげられる。

一方、課題は、2020年以降の交流に関する予算の確保、²⁰⁾ 交流事業を行う際の双方の費用負担¹⁴⁾ などの財政面、交流国と物理的距離による人的交流の難しさ²¹⁾、息の長い交流、事業の展開¹⁴⁾、子供達同士の交流²²⁾ などの交流内容、市民の認知度の低さ²³⁾ があげられる。そして、地元住民や企業への認知度向上、自治体内の部署間での情報共有、商工課、観光課等の部署との連携、ホストタウン国が同じ自治体との連携の必要性が示唆された。²⁴⁾ 2020大会に向け、全国の自治体が所有する人的、物的、財的、情報資源を活用し、交流国と多様な事業を展開している。これまで相手国との交流事業を展開していく

中で明らかになった課題に対して、延期された2020大会時や大会後の交流を検討し、取り組んでいくことが必要になってくるであろう。

3. 西京銀行課題解決型インターンシップ (PBI) の開催趣旨と概要

2016年からの取組みである「西京銀行課題解決型インターンシップ」(以下、「本PBI」)は、今年で第4回目の開催となるものである。

過去開催された第1回目、第2回目、第3回目のPBI課題は、西京銀行にて2013年よりスタートした「若旅inやまぐち」の事業をさらにブラッシュアップする新たな企画案の作成であった。

第4回目となる本PBIでは、下松市が東京五輪(ベトナムバドミントン女子)に係るホストタウンに登録されたことを受けて「東京五輪ホストタウン”おもてなしプラン”の作成」を課題とし、学生の柔軟な発想を求める内容とした。

講師にミズノ株式会社営業統括本部営業推進部原幸彦氏を招聘し開催した。

対して、主催者側となる西京銀行であるが、山口県周南市に本店を構える第二地方銀行として、地域密着型金融を目指し地域経済の活性化に積極的に貢献するために、まち・ひと・しごと創生総合戦略を踏まえた地方創生の取組みを実施している。

また、近年の山口県の人口減少は、県内支店網がある西京銀行にとって大きな懸念事項となるものである。これを改善するには、山口県内・外の方々に、山口県の魅力や優れた点をより多く知っていただくことは必須となり、本課題においても学生の柔軟な発想から山口県の新たな魅力の発見を期待して実施した。このように、10年・20年先のことを考え

た地方創生の事業を西京銀行の担当部署である地域連携部では実施したのである。

本PBIについても、上述する西京銀行の地方創生事業の一環の位置づけとなる。

概要としては、2019年6月1日（1日目）、6月8日（2日目）、6月15日（3日目）いずれも土曜日の3日間にて開催。講師は原氏が担当し、当行関係者（赤井・栗林）は運営スタッフに従事した。今年から当行若手行員もオブザーバーとして参加し、当行の人材育成の場としての開催趣旨も加えた。

参加者は、徳山大学の学生37名とオブザーバー5名の計42名であった。5つのグループ分けをしての進行となった。

PBI開始に先立って、PBIでのチームビルディングに資するため、チームTシャツのデザイン、作成を行っている。Tシャツのデザ

インは徳山大学知財開発コースの学生が行い、作成は連携企業の1つである株式会社ミズノが担当した（図1）。

以下は実施内容の詳細である。

1日目は、場所を徳山大学ラーニング・commons(1141教室)にて1コマあたり90分の講義を2コマ開催した（写真1）。

ALの手法である、ブレインストーミング法やKJ法による情報共有と企画立案のための情報整理を行った。1日目の2コマ目からは徳山大学生がデザインした今回限定Tシャツを着用した。本PBIはさまざまな情報収集が必要になるため、次回までに各自収集し、講義に臨むことを確認し、情報収集内容は、ベトナム人・下松市役所・バドミントン選手にどのようなおもてなしを望むかのヒアリングを行うこととなった（写真2、3）。



図1. 学生がデザインしたTシャツ（案）



写真1. 徳山大学ラーニング・commons



写真2. ベトナム研究者へテレビ電話でインタビューする様子



写真3. バドミントン選手（手前）を大学に招いて合同インタビュー

ベトナム人へのヒアリングはテレビ会議を使ったインタビュー及び徳山大学ベトナム人留学生へのインタビューでおこなった。また、連携先の下松市役所には直接訪問し、下松市のホストタウン事業上のニーズ調査を行った。バドミントン選手へのヒアリングとしてACT SAIKYO及び徳山大学バドミントン部の学生へのインタビューを行った。

2日目は、場所を西京銀行本店（周南市）にて1コマあたり90分の講義を2コマ開催した。

これまでに整理した情報をもとに各班テーマの決定を行い、その後は、プレゼン資料の作成や発表準備、企画書の最終確認等を行い、一週間後となるプレゼン大会に挑む流れとなった（写真4）。2日目終了時点で発表資料まで完成した班は少なく、未完成の部分は各班、役割分担をし、プレゼン大会当日を迎えるよう講義終了した。

3日目は、西京銀行本店（周南市）にて最終発表会としてグループごとにプレゼン発表会を実施。発表会では、下松市役所、山口市役所、防府市役所、岩国市役所、山口県庁のホストタウン事業関係者を招き、各班のプレゼンに対し講評を受ける機会を設けた。1班あたりの持ち時間は10分と定め、8分は学生側が発表をし、2分は来賓者からの講評時間を設けた。

各班共に個性的な企画案が発表され、8分間という限られた時間の中で学生達は作り上げてきた企画案を大いにアピールした。

プレゼン大会終了後には修了式を実施し、原氏から最後のメッセージをもらい、集合写真を撮影し、全プログラムを終了した。

以上のように、参加者が主体的に調べ、考え、発表を行うという一連の取組みによって課題解決型AL（PBI）を実施することが出来た。

4. 実施者側から見た本PBIの意図と効果

今回のインターンシップにおける意図と効果について実施者側の意図と効果についてまとめておきたい。

4.1 本PBI講師の意図

今回のテーマは「ベトナム女子バドミントンチームの選手に対する『おもてなし』のプランを企画すること」であった。『おもてなし』がテーマである以上、おもてなしをする側とおもてなしを受ける側の双方が、明るく、楽しく、面白くなければ意味がない。そこで、講師が意図したのが次の4つである。

- (1) 様々な制約を極力排除することができる「場づくり」に力点を置く。
- (2) 学生が社会人になってからも使える「基本スキルを習得」させる。



写真4. グループワークの様子



写真5. プレゼン発表会の様子

- (3) 自分たちの想いと相手の想いと「ギャップ」を気づかせる。
- (4) 学生自身を「おもてなし」する。

(1)「場づくり」について

今回のプロジェクトを行なうにあたって、講師が最もこだわったのが「場づくり」である。

「おもてなし」を実感すべく、雰囲気や和らげたうえで進める必要があった。おもてなしを行なう側・受ける側双方が楽しくなければ企画案としては失格である。そこで「独自のルール」と「ユニフォーム」の2つを意図的に導入した。

- a) 「独自のルール」: 「おもてなし」を楽しく、枠にとらわれずに考えるためには、可能な限りの制限を撤廃しなければならない。そこで、法の秩序や社会的なマナーを犯さない限りは「なんでもあり」とする独自のルールを設けた。具体的には、「AAP (安心・安全・ポジティブ)」、「ACT (Approach・Creative・Think, think, think!)」「STM(素直に・楽しく・前向きに)」の3つである。特に最初の「AAP」が最後まで保てるかどうかプロジェクト成否の大きなカギとなった。
- b) 「ユニフォーム」: 堅苦しい表情でのプレゼンテーションはせっかくの企画そのものの価値や効果を著しく低下させる。せめて見た目だけでも楽しさを出すために、チームビルディングとグループディスカッションの活性化のため「ユニフォーム」(先述)を作成することとした。結果として、視覚的なインパクトを与えることができ、デザイン原案を学生たちに委ねたことも奏功して、過去3回のインターンシップとは異なる

新たなチャレンジの一端を示すことができたように評価する。

(2)「基本スキルの習得」について

4年間のPBL体系で学ぶ徳山大学学生は、PBLリテラシー育成のため、授業内でプレゼンテーションを行う機会はあったが、一般の社会人相手(今回は下松市副市長をはじめとした自治体の幹部の方々)を相手にプレゼンテーションを行う経験がある学生は少なかった。そこで講師は「ストーリーの組み立て方」と「相手に響くプレゼン手法」の2つを活用し、高度なPBLリテラシー獲得を企図していた。

- a) ストーリーの組み立て方

プレゼンテーションに限らず、相手に説明する場面や説得する場面では、それ相応に論理の組み立て方を心得ておく必要がある。そこで今回は、「企画案を組み立てるためのプロトタイプ」を用意した。今回のインターンシップの中で取り上げたのは「PREP法」である。将来、学生が様々なシチュエーションで提案を行なう際の拠り所となり、ワークショップで取り組みやすい基本的な方法であることから採用された。

一般的に、「PREP法」とは、①概要・結論(Point)→②理由づけ(Reason)→③例示(Example)→④結び・結論再掲(Point)という4つの構造からなる論理の組み立て方法である。結論を先に述べるので、特に短時間で相手を説得する際に有効な手法であり、外国人とのコミュニケーションを介するグローバルなシーンでもよく使われる方法である。

ただし、いきなり本論に入ってしまうと学生たちの興味が湧いてこないの、彼

らの日常生活で起こりうるシーンを想定し、「遊び感覚」めいた要素を取り入れてPREP法の構造を理解する方法を採った。そのうえで、本題である「おもてなしプランの企画」に結びつけていく配慮を行なった。

各チームが行なった発表内容を見ると、おおむねうまく論理構成ができており、講評をいただいた来賓各氏からも肯定的な評価コメントをいただけた。

b) 相手に響くプレゼン手法

プレゼンテーションにおいては、「見た目」や「声・表情」などのNon-Verbal Communicationが印象を大きく左右する。ただし、プレゼンテーションのコンテンツそのものがしっかり練られていることが評価の大前提である。あくまでNon-Verbalな要素は、料理で言えば調味料的な役割に過ぎないが、素材の良さを生かすも殺すも、また、最終的な出来栄も調味料の巧拙が大きく影響することと同じ理屈と考えてよい。

今回は「おもてなし」がテーマなので、おもてなしの相手を多面的に喜ばせることを主題に学生に考えてもらった。そこで講師が企図したのが、「五感への刺激」である。すなわち、「目を」楽しませる(=視覚)、「耳を」楽しませる(=聴覚)、「舌を」楽しませる(=味覚)、「鼻を」楽しませる(=嗅覚)、「手足・からだを」楽しませる(=触覚)の5つを有機的に組み合わせてプランを考えてほしい、という狙いを明示した。単に資料を映写し、かたい表情で話すのではなく、「見せる」+「魅せる」の効果を期待した。

その結果、プレゼンテーションでは、ベ

トナムコーヒーを実際に飲んでもらい味と香りで刺激する案、日本ならではの昔遊びや山口県の観光資源を使った「癒し」の提案で「からだ」と「こころ」を楽しませる案、下松市民と選手との触れ合いの場を創造する案など、ホストタウンを担う自治体関係者の心をくすぐる提案ができた。学生にとってもプレゼンのバリエーションを増やすメリットがあったと考えられる。

(3) 自分の想いと相手の想いの「ギャップ」を認識

企画案を練るときには、「相手が喜ぶこと」「相手が解決したいこと」を的確にとらえることが重要である。インターンシップの時間中では、学生たちなりに「想像」することはできる。しかし、本当に相手がそう思っているかの「確認・検証」を行なっておかなければ、独りよがりの企画案に陥ってしまう。

このリスクを防ぐために、今回、あえて「選手たちへのインタビュー」や「ベトナム人の知人へのヒアリング」を課題として提示した。「おもてなしの対象者」により一層近づき、実際に生の声を聴くことによって、自分たちが想像していたことと、対象者が実際に思っていることとの「ずれ」を認識することがこの部分で意図していたことである。当然、インタビューやヒアリングを行なった後に軌道修正をしたり、新たなアイデアを生み出したりすることになったと思う。この活動により、「現場・現実・現物」の「三現主義」の大事さを少しでも感じてもらいたかった。

この点を重視したことで、最終提案でのエビデンス内容(Reason)を深めることができたように評価している。

(4) 学生自身を「おもてなし」する

今回のテーマが「おもてなし」であることから、インターンシップの対象者である学生自身が楽しめるよう、講義では「おもてなしをする相手の五感に触れることを考える」という切り口を強調した。特に、本インターンシップでは学生の「目」と「耳」と「手足」の三感を刺激した。具体的には、①受講中にユニフォーム着用を指示、②講義資料に多く画像を採用、③BGMを使ってワークを実行、④アイスブレイクで声を出しながらのキャッチボール(写真6)を取り入れるなどの工夫をした。

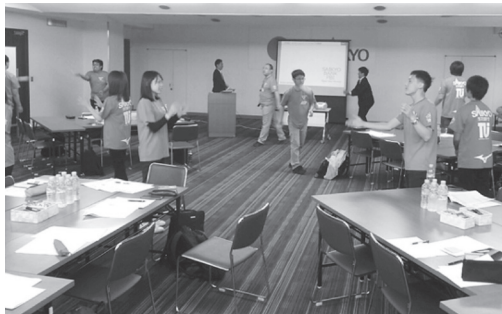


写真6. アイスブレイクの様子

5. むすびにかえて

本取組は西京銀行・ミズノ株式会社、徳山大学、下松市の産学官連携によるホストタウン事業活性化プラン作りに対する課題解決型インターンシップであった。むすびにかえて、本インターンシップの課題と下松市ホストタウン事業への寄与について下記の点を挙げておきたい。

5.1 参加意識の差

今回は時間外活動で、下松市役所への取材やバドミントン選手へのインタビュー、ベトナム文化研究者へのヒアリングなど、大いに積極的に取り組んでもらった。エビデンス向上に大いに役立ったといえる。

一方でインターンシップへの参加はあくまで任意ではあるものの、「就業体験」であり、「ビジネスの場の一環」である。実際の企業で行われている事業活動を経験できる貴重な場でもある。大学での授業とのハイブリッド型として実施したことでヒアリング調査や発表資料作りはうまくいったが、単なる大学の授業ではなく「インターンシップ」であるという意識が薄い学生もみられた。

5.2 段階的なレビュー機会の保証

この点はカリキュラム設定上でやむを得ない部分もあるが、途中で各チームの進捗レビューを行なう時間を設けていなかったため、各チームに入った西京銀行のオブザーバーや参加学生の一部に思った以上の負担をかけてしまう結果となった。今後PBIを実施する際には、各チーム別で、講師をプレゼンテーションの相手に見立てて進捗レビューを行なう時間をチーム当たり20分程度で設定するなどが必要であろう。

5.3 実施されたプランとその効果

本PBIで作成されたプランは下松市ホストタウン事業の一環として実施された。その一部を抜粋したのが以下のものである。

- ・哲学カフェ「寺子屋」でのベトナムコーヒー提供・パンフレット配布(10月、11月、12月、1月)
- ・ポプラ祭でのベトナム留学生ブースでのベトナム料理提供・パンフレット配布・アンケート調査(10月)
- ・ポプラ祭地域ゼミポスター発表での取り組み紹介、パンフレット配布、アンケート調査(10月)
- ・下松市制80周年行事 Next Is Youへ、ベトナムコーヒー店出店、パンフレット配布、ポスター掲示、アンケート調査(10月)
- ・下松市商工祭りへのベトナムコーヒー店出店、ベトナム民芸品販売、パンフレット配布、アンケート調査(11月)

- ・下松市豊井小学校でのダーカウ体験、ベトナム料理提供、ベトナム人バドミントン選手との交流会(11月)
- ・下松市立久保小学校でのダーカウ体験、おもてなし遊びづくり(12月)
- ・教養ゼミプレゼン発表会で下松市ホストタウン事業の現状について報告(12月)
Kビジョン正月特番への出演、下松市ホストタウン事業の説明、ベトナムコーヒーの提供(1月)
- ・後期地域ゼミ合同発表会でベトナムホストタウン事業への本学のかかわりについて発表(2月)
- ・後期地域ゼミ合同発表会でベトナムホストタウン事業についてポスター発表、パンフレット配布、アンケート実施(2月)

図2は徳山大学の関わった下松市ホストタウン関連イベントの効果調査の結果の一部である。「ホストタウン事業への興味」を問うた質問である。図2上の帯グラフが徳山大学が関わった下松市ホストタウン関連イベントに参加した者(以下「徳山大学関与」)、それ以外のホストタウンイベント等に参加した者(以下「その他イベント」)が下の帯グラフである。「徳山大学」はホストタウン事業への興味があるかとの問いに「非常に」「まあまあ」合わせて80%以上である一方、「徳山大学以外」は「非常に」「まあまあ」合わせて6割弱にとどまる。詳細な分析は必要であるが、徳山大学が関わったイベントに参加した者はその他イベント参加者と比べ、ホストタウン事業へ興味を喚起された可能性がある。

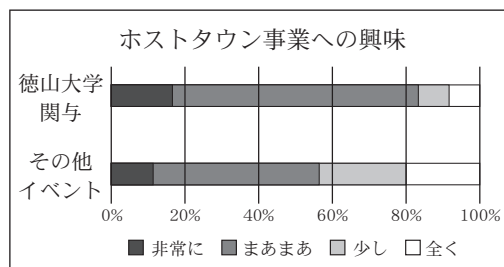


図2. ホストタウン事業への興味の喚起

本取組は西京銀行・ミズノ株式会社、徳山大学、下松市の産学官連携によるホストタウン事業活性化プラン作りに対する課題解決型インターンシップであった。「参加意識の差」や「段階的なレビュー機会の保証」という点で課題はみられたものの、下松市のホストタウン事業の活性化にあっては「興味の喚起」という点で一定の寄与があったものと推察される。本取組は2020年度以降も継続される予定である。ここで明らかとなった課題に対応してPBIを運営することで、下松市ホストタウン事業の活性化へのさらなる寄与に資することが期待される。

引用参考文献

- 1) 首相官邸、ホストタウンの推進について
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020-suishin_honbu/hosttown_suisin/index.htm
(最終閲覧2020年11月15日)
- 2) 首相官邸、ホストタウン一覧
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020-suishin_honbu/hosttown_suisin/gaiyou_dai1.html (最終閲覧2020年11月15日)
- 3) 山口市のホストタウンとしての取組(2019年度) <https://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/147/65254.html> (最終閲覧2020年11月14日)
- 4) 下松市交流計画の概要
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020-suishin_honbu/hosttown_suisin/pdf/Kudamatsu_City_gaiyou.pdf (最終閲覧2020年11月16日)
- 5) ホストタウン, 共生社会ホストタウンとは,
<https://host-town.jp/about/#pioneering-convivial-society-hosttown> (最終閲覧2020年11月13日)
- 6) 共生社会ホストタウン追加登録団体の活動計画
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020-suishin_honbu/hosttown_suisin/pdf/kyoseisyakai_hosttown_tuika201030.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 7) ホストタウン, 復興ありがとうホストタウンとは,
<https://host-town.jp/about/#pioneering-convivial-society-hosttown> (最終閲覧2020年

- 11月13日)
- 8) 復興ありがとうホストタウン一覧
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/pdf/2020_0911_ichiran.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 9) スポーツキャンプの受入れ 宮城県白石市・柴田町 — ベラルーシ新体操チーム —
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/pdf/h29_jirei.pdf (最終閲覧2020年11月16日)
- 10) 山口市のホストタウンとしての取り組み(2019年度) <https://www.city.yamaguchi.lg.jp/soshiki/147/65254.htm> (最終閲覧2020年11月16日)
- 11) ホストタウン一覧
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/gaiyou_dai1.html (最終閲覧2020年11月15日)
- 12) つくば市交流計画概要
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/pdf/Tsukuba_City_gaiyou.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 13) オリパラ基本方針推進調査
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/index.html (最終閲覧2020年11月15日)
- 14) オリパラ基本方針推進調査pp14
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 15) オリパラ基本方針推進調査pp23
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 16) オリパラ基本方針推進調査pp27
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 17) オリパラ基本方針推進調査pp29
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 18) オリパラ基本方針推進調査pp35
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 19) オリパラ基本方針推進調査pp37
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 20) オリパラ基本方針推進調査pp10
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 21) オリパラ基本方針推進調査pp15
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 22) オリパラ基本方針推進調査pp21
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 23) オリパラ基本方針推進調査pp17
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/1-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)
- 24) オリパラ基本方針推進調査pp40
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/hosttown_suisin/kihon_suisintyousa/pdf/2-1_seikahoukoku.pdf (最終閲覧2020年11月15日)